

マタニティーブルーズの本邦における実体とその対策

分担研究：妊産婦の精神面支援とその効果に関する研究

福島県立医科大学産婦人科

研究協力者 星 和彦

要約：

研究協力者である九州大学医学部神経精神科山下洋先生が平成5年度の分担研究の一環として日本のマタニティーブルーズの産科施設における実態調査、産後の追跡調査を行った。そのデータからマタニティーブルーズの評価システムを検討し、Steinの自己質問表を産直後のスクリーニング法として英国と同じ区分点で用いることができることを示した。また同じく平成5年度の分担研究の課題の一つとして妊産婦の精神面支援プログラムの策定を挙げ、1)パンフレットによる妊娠、出産に関連するストレスによる心理教育と2)母子保健スタッフによる産前からの一貫した関与の2点をマタニティーブルーズに対する影響について検討すべき項目として掲げた。

われわれはそのプログラムに従って、当施設の妊婦、分娩の合併症のない妊産婦に上記に挙げた2つの方法で管理を行った。対象とした妊婦は13名で、いずれも妊娠、分娩の合併症のない妊婦であり、対照群5名、パンフレット群3名、一貫管理群5名を無作為に抽出した。産前の評価はState-Trait Anxiety Inventory(以下STAI)とZungうつ病自己質問表を、出産後5日間のマタニティーブルーズの評価については山下洋先生の検討したSteinの自己質問表を、産褥1ヶ月後の鬱病の評価にはエジンバラ産後うつ病自己質問表(以下EPDS)を用いて行った。

産前の不安、うつ状態の評価についてはSTAI、Zung法でのいずれでも各群間に有意差は認められなかった。産後のマタニティーブルーズの評価については各群間に有意差は認められなかったが、EPDSの得点は、対照群、パンフレット群に比較して一貫指導群において有意に低値を示し精神的支援の効果が示唆された。また、産前のSTAIの特性不安、状態不安、Zung法による抑うつ尺度の評価と産後5日間のSteinのマタニティーブルーズの評価、EPDSとの相関関係が認められ、STAIの特性不安、状態不安、Zung法による抑うつ尺度の評価はマタニティーブルーズ、産後うつ病のスクリーニング

に有用である可能性が示唆された。

見出し語

マタニティーブルーズ、産後うつ病、STAI、Zungうつ病自己質問表、Steinのマタニティーブルーズ自己質問表、EPDS

研究方法

合併症を持たない13名の妊婦を無作為に次の3群に分けた。

- 1)通常の妊婦健診のみを行った群 5名
- 2)通常の妊婦健診に加えパンフレットを手渡した群 3名
- 3)同一の助産婦が妊娠中から分娩、産褥まで担当し一貫した指導を行った群 5名

2)のパンフレットを渡した時期は3名とも妊娠10ヶ月に入ってから36-37週であり、3)の同一の助産婦による一貫指導も10ヶ月に入ってから行われた。これらの妊婦に研究協力者である山下洋先生の検討した以下の調査を実施した。

1. 妊娠後期

State-Trait Anxiety Inventory(以下STAI)により状態不安、特性不安をスコアリング、Zungうつ病自己質問表により抑うつ尺度をスコアリング。いずれも高得点ほど不安の程度、抑うつの程度が高度と評価。

2. 産後5日間

Steinのマタニティーブルーズ自己質問表により8点以上をマタニティーブルーズと評価。

3. 産褥1ヶ月

エジンバラ産後うつ病自己質問表(以下EPDS)により9点以上を産後うつ病と評価。

結果

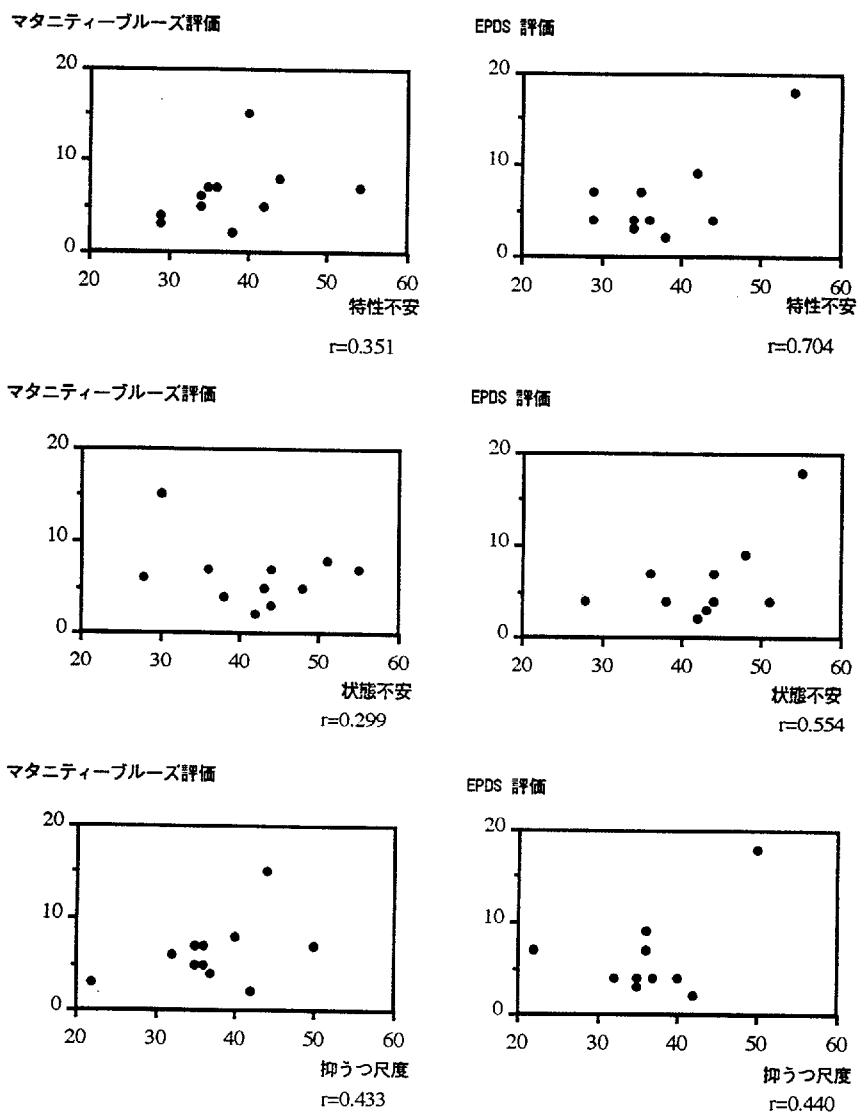
表1に各群における産前の状態不安、特性不安(STAIによる)と抑うつ尺度(Zungうつ病自己質問表による)の得点及び産後5日間のSteinのマタニティーブルーズ自己質問表での最高得点、産褥一ヶ月目のEPDSの得点を示す。不安、うつ状態の評価についてはSTAI、Zung法でのいずれでも各群間に有意差は認められなかった。

産後のマタニティーブルーの評価については各群間に有意差は認められなかったが、EPDSの得点は、対照群、パンフレット群に比較して一貫指導群において有意に低値を示し精神的支援の効果が示唆された。また、産前のSTAIの特性不安、状態不安、Zung法による抑うつ尺度の評価と産後5日間のSteinのマタニティーブルーの評価、EPDSとの相関関係が認められた(図1)。マタニティーブルーと評価されたものは、パンフレット群3名中1名、一貫指導群5名中2名、産後うつ病と評価されたものは対照群5名中2名認められたがSTAIの特性不安、状態不安、Zung法による抑うつ尺度の評価が高得点の傾向があり、STAIの特性不安、状態不安、Zung法による抑うつ尺度の評価はマタニティーブルー、産後うつ病のスクリーニングに有用である可能性が示唆された。

表1 各群における諸テストの得点(平均±標準偏差)

	対 照 群	パンフレット群	一貫指導群
状態不安	43.6±9.9	40.0±5.7	40.3±8.7
特性不安	40.0±8.8	32.0±4.2	37.8±6.3
抑うつ尺度	37.6±7.1	29.0±9.9	40.8±3.0
マタニティーブルー評価	6.0±1.0	6.0±2.7	7.2±5.0
EPDS	7.6±6.3	5.7±2.3	3.5±1.0

図1 特性不安、状態不安(STAI)、抑うつ尺度(Zung)とSteinのマタニティーブルー評価及びEPDS 評価との相関

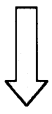


考 察

今回のプログラムによる妊産婦に精神的支援の違いは妊娠10ヶ月に入ってから行ったものであり、Steinのマタニティーブルーズ自己質問表での評価については各群間に有意差は認められなかったが、EPDSでの評価では対照群、パンフレット群に比較して一貫指導群において有意に低値を示し精神的支援の効果が示唆され、より長期のプログラムによりマタニティーブルーズ、産後うつ病に対し精神的支援の効果が期待できると思われた。また、産前のSTAIの特性不安、状態不安、Zung法による抑うつ尺度の評価と産後5日間のSteinのマタニティーブルーズ自己質問表での評価、EPDSとの相関関係が認められ、STAIの特性不安、状態不安、Zung法による抑うつ尺度の評価はマタニティーブルーズ、産後うつ病のスクリーニングに有用である可能性が示唆された。また今回は症例数が13名と少なく、長期の多人数による研究計画を行うべきであると考えられた。

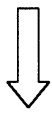
文 献

- 1) J. L. COX, J. M. HOLDEN and R. SAGOVSKY: Detection of Postnatal Depression. Development of the 10-item Edinburgh Postnatal Depression Scale. *Br J Psychiatry* 150;782, 1897.
- 2) 岡村 仁: 不安障害の自己記入式調査票. 季刊精神科診断学3;437, 1992.
- 3) 岡野禎治、野村純一、越川法子、土居通哉、辰沼利彦: Maternity Bluesという産後うつ病の比較分化的研究. *精神医学*33;1051, 1991.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:

研究協力者である九州大学医学部神経精神科山下洋先生が平成5年度の分担研究の一環として日本のマタニティーブルーズの産科施設における実態調査、産後の追跡調査を行った。そのデータからマタニティーブルーズの評価システムを検討し、Steinの自己質問表を産直後のスクリーニング法として英国と同じ区分点で用いることができることを示した。また同じく平成5年度の分担研究の課題の一つとして妊産婦の精神面支援プログラムの策定を挙げ、1)パンフレットによる妊娠、出産に関連するストレスによる心理教育と2)母子保健スタッフによる産前からの一貫した関与の2点をマタニティーブルースに対する影響について検討すべき項目として掲げた。

われわれはそのプログラムに従って、当施設の妊婦、分娩の合併症のない妊産婦に上記に挙げた2つの方法で管理を行った。対象とした妊婦は13名で、いずれも妊娠、分娩の合併症のない妊婦であり、対照群5名、パンフレット群3名、一貫管理群5名を無作為に抽出した。産前の評価はState-Trait Anxiety Inventory(以下STAI)とZungうつ病自己質問表を、出産後5日間のマタニティーブルーズの評価については山下洋先生の検討したSteinの自己質問表を、産褥1ヶ月後の鬱病の評価にはエジンバラ産後うつ病自己質問表(以下EPDS)を用いて行った。

産前の不安、うつ状態の評価についてはSTAI、Zung法でのいずれでも各群間に有意差は認められなかった。産後のマタニティーブルーズの評価については各群間に有意差は認められなかったが、EPDSの得点は、対照群、パンフレット群に比較して一貫指導群において有意に低値を示し精神的支援の効果が示唆された。また、産前のSTAIの特性不安・状態不安、Zun法による抑うつ尺度の評価と産後5日間のSteinのマタニティーブルーズの評価、EPDSとの相関関係が認められ、STAIの特性不安、状態不安、Zung法による抑うつ尺度の評価はマタニティーブルース、産後うつ病のスクリーニングに有用である可能性が示唆された。